

公民館月報

K O M I N K A N G E P P O



特集

子どもの教育を語る集い

4.5 「子どもの豊かな心を育む地域力の創造」

2 トピックス 第1回理事会・評議員会開催

3 視点 つながりあえる居場所

3 ひろば つくしっ子クラブ

6 実践記録シリーズ 勤労青少年ホームの（青年の生涯学習対策としての）イベントの取り組みについて

7 サークル交流 演劇集団36連射（南魚沼市）／なんでも創ろう会（山北町）

7 素顔拝見 佐藤 春雄さん（長岡市）／五十嵐勝栄さん（長岡市）

青少協との共催▶
「川で遊ぼう！川を調べよう！」



◀ ボランティアの大学生と一緒に
「ミニミニ運動会」

「わだっこ公民館」上越市立公民館 和田分館

表紙解説

子どもたちの居場所づくりや世代間交流を目的に、公民館で様々な体験活動を開催して3年目になります。今後もより多くの方に活動を知ってもらい、地域全体で子どもたちを育てる機運を高めていきたいと思います。

第一回理事会・評議員会開催

●平成十八年度基本方針・重点事業決定
●自主財源確立のための調査検討委員会活動

会長には三保恵美子氏再任 (新潟市中央公民館長)

去る五月二十五日(木)、第一回理事会・評議員会が、新潟市生涯学習センターで開催された。

来賓には、県生涯学習推進課長(代理出席)様、下越教育事務所社会教育課長様はじめ担当の社会教育主事様等四人の方をお迎えして定刻に開会。

議長には、下公連阿賀野市中央公民館見原健司館長を選任、議事に入った。

◇審議内容

一、役員改選について

(新役員名簿 別掲第三面)

二、平成十七年度会務報告及び収入支出決算について

三、平成十八年度基本方針・重点目標・事業計画案について

四、平成十八年度収入支出予算案について

五、第五十七回新潟県公民館大会(小千谷大会)について

六、第四十七回関東甲信越静公民館研究大会(群馬大会)への参加要請について

等提案され、原案どおり承認された

◇報告・連絡事項

(1)公民館月報の原稿執筆割り当てについて

(2)平成十八年度公民館月報の購読及び「新任職員のための道しるべ」の購入促進について、事務局から説明がなされた。

◇公民館総合補償制度について

エコー保険サービスの担当者より、県内の加入状況及び利点等について、資料に基づき具体的な説明がなされた。



BOOKS INFORMATION

「公民館運営審議会委員の手引」—改訂版—

A4版 68ページ 500円 (送料実費)

公民館月報(個人購読大歓迎) 定価1部150円 年共・年極 1,800円

申込先 〒951-8053 新潟市川端町2-9 県林業会館内 県公民館連合会事務局 TEL・FAX025-224-6073

視点

つながりあえる居場所

新潟市坂井輪地区公民館
ウィメンズハウス

吉崎かずこ



私が所属するサークル「ウィメンズハウス」が、新潟市坂井輪地区公民館の呼びかけで「子育てリビング・える」を開設してもうすぐ一年になります。

「子育てリビング・える」は、「親子が「リビングルーム」のようにくつろぎ何かを「得る」場に、という思いで名づけたフリースペースです。

毎月第一月曜に開催していますが、キャンセル待ちが出るほどの大盛況！女性のための居場所作りを目指した活動が、こうして形になりうれし

この「子育てリビング・える」は、公民館とのタイアップなので、私達なりの経験や持ち味を生かしながら、大船に乗った気持ちで運営しています。

参加の親子達も、窓口が公民館なので安心して来られるようです。

この安心感が、くつろげる雰囲気を作り、盛り上がる要因になっているのでしよう。

回を重ねる毎に単なる場所ではなく、人と人がつながりあう空間になっていくのを感じます。

これからも、お互いつながり合える「える」を大切にしたいです。

掲示板

平成18年度新潟県公民館連合会役員名簿

平成18年5月25日現在

郡市名	役職名	氏名	所属公民館
新潟市	会長	三保恵美子	新潟市中央公民館
新潟市	副会長	主田 真照	新潟市中央公民館
新潟市	理事	竹内 友二	村上市中央公民館
五泉市		熊倉 文男	五泉市公民館
阿賀野市		見原 健司	阿賀野市中央公民館
佐渡市	理事	磯部 好一	佐渡市公民館
胎内市	監事	長野 正夫	胎内市中央公民館
東蒲原郡		井上 啓	阿賀町公民館
岩船郡		高橋 雄平	神林村公民館
長岡市	副会長	大関 重雄	長岡市中央公民館
三条市		宗村 里士	三条市中央公民館
柏崎市		酒井 明	柏崎市柏崎公民館
小千谷市	監事	金箱 貞夫	小千谷市公民館
加茂市	理事	佐藤 俊夫	加茂市公民館
十日町市		上原 伸一	十日町市公民館
見附市		佐野 行男	見附市中央公民館
燕市		安達 高久	燕市中央公民館
魚沼市		星 雅美	魚沼市中央公民館
南魚沼市		井口 光雄	南魚沼市公民館
西蒲原郡		福田 正智	弥彦村公民館
南蒲原郡		小林 昭夫	田上町公民館
三島郡		中野 一芳	出雲崎町中央公民館
北魚沼郡		星 元	川口町公民館
南魚沼郡		並木 進	湯沢町公民館
中魚沼郡		松縄 廣道	津南町公民館
刈羽郡	理事	鬼山 正生	刈羽村公民館
上越市	副会長	星野 正行	上越市立公民館
糸川市	理事	山岸 洋一	糸川市中央公民館
妙高市		倉石 義行	妙高市公民館

○印 新任

ひろば

つくし子クラブ

三糸市中央公民館運営審議会委員 小林 斉子

桜の花びらが降る春の日の校庭、年齢差五十以上開きがある私と子ども達がサッカーに興じている。

私の住む月岡小学校区、地域ふれあい教室、つくし子クラブ、でのワンシーンだ。

一月十八日スタートしたこのつくし子クラブは生涯学習事業で、地域・家庭の教育力の活性化を目指して発足。週二回、学区のポランテニア四十二名が活動している。

体育館、校庭、図書室、音楽室、ミーティングルーム等開放された場所、好きな遊びや読書、宿題等、スタッフに見守られ穏やかにゆつくりと、また、アクティブにあつという間に時

間が流れて行く。

子ども達は遊びの中で、工夫や思いやりで下級生との関係を築いて行く。私達大人も、この場で新しい発見、気づき等学ばべきものが沢山ある。

地域住民としての学校への関心・理解・協力・スタッフ同士のコミュニケーションが醸成しつつある、何かが動き始めた。

季節は桜から若葉へ、若葉が光る校庭で今日も子どもたちの笑顔が輝く。子どもは良く笑う。本当に良く笑う。



集い 心を育む地域力の創造

を考えることが大切である。

- ・松浜小学校：子どもふれあいスクール
- ・松浜、濁川中学校：大学生による学習ボランティア
- ・はまなす学会：はまなす駅伝、北の楽市
- ・福祉大学：一休さんの子ども、松浜中学校との交流

- 5 北地区における地域力向上の一つとして、はまなす駅伝大会方式がある。地域の財産である既存の組織や団体がミーティングテーブルをもちながら、自分たちで何ができるのかを考え、強く拘束されたり、縛られたりすることなく、ゆるやかなネットワークをつくることが大切である。ゆるやかなネットワークの中での事業や活動は、無理なく、継続的に地域力を高めるのではないか。

シンポジスト

- ・新潟医療福祉大学 教授 丸田 秋男 様
- ・北地区公民館 主任 樋口 栄子 様
- ・松浜地区育成協 会長 菊地 徹 様
- ・松浜中学校PTA 会長 森 勇人 様
- ・濁川中学校 校長 上沼 歆子 様

コーディネーター

- ・太夫浜小学校 校長 三島 信二

II シンポジウム…それぞれの立場から

菊地 丸田先生の基調講演から、地域の大人である我々は何かをしなければという思いを強くしている。松浜地区育成協では様々な活動を行っているが、その一方で地域に浸透しないという状況もある。このような中、人間関係づくりの一步であるあいさつは、地域の人々のコミュニケーションづくりに欠くことのできないものだと考えている。

樋口 家庭教育学級の活動が、十分理解されているとはいえない状況がある。家庭教育学級は保護者が学び、学んだことを地域に知らせ、地域が子どもを育てることを身につけてほしいと考えている。公民館活動は、大学生、育成協、保護者など多くの方々から協力していただいている。

森 松浜中学校のPTA活動は、ミーティングテーブルが常に準備されている。そのため風通しの良い組織となっており、円滑な活動ができています。教育活動やPTA活動に大学生の協力を得て、地域に貢献する良い関係が定着している。

上沼 濁川中学校は、地域とのかかわりが強いと感じている。それは、地域の方が学校を訪ね、地域への熱い思いを語ってくれたことに表れている。顔が見られる環境を大切にしなければならぬ。顔を見て大人から挨拶をすることは、子どもに挨拶を促し、挨拶は返事をよくし、話の糸口をつくることになる。

丸田 ボランティアに取り組む大学生と地域の人を置き換えて考えると、学生が主役になってはならない。学生は風の人であり、この地に留まる人ではない。地域に住む人が主役になってこそ地域が育ち、子どもが育つ。組織や団体にこだわらず活動していくことが大切ではないか。

シンポジストそれぞれの立場やフロアーから、問題点や解決に向けた話し合いが展開された。地域力を高めるためには、組織や団体にとらわれず、ゆるやかなネットワークでできることからやってみようとの流れをつかむことができた。具体的な取組みとして、それぞれで挨拶についての活動を試みようということとなった。

特集

子どもの教育を語る 「子どもの豊かな心」

新潟市立太夫浜小学校
校長

三島 信二



新潟市阿賀地区小中学校長会では、地域、学校で子どもをどのように育てていけばよいのかをテーマに、シンポジウム等とおして考えるようになって3回目となります。今回は、地域の方と共に協力、連携して子どもの健全育成のあり方について、子どもの教育を語るつどいを実施しました。

平成の大合併も終え、新潟市は政令指定都市に向けて多くの施策を打ち出しています。その一つとして、新潟市の教育が目指す方向と在り方を明確に示す「新潟市教育ビジョン」を策定し、平成18年度発表されました。

この教育ビジョンの内容に大きな期待を込めながら、改めて阿賀地区の子どもたちを地域としてどのように育てていけばよいのか。また、阿賀地区の歴史や伝統、文化、風習などを見直して、地域力をいかに創造していけばよいのかを、子どもの教育を視点にして、語り合いたいと考えました。

今年度のテーマは、「子どもの豊かな心を育む地域力の創造」としました。

「今の子どもは」と言う場合、およそ批判的な内容がその後続きます。人とかかわることが苦手である。被害者意識が強い。我慢強さに欠ける。規範意識が弱い。意欲に乏しいなど。

では、阿賀地区の子どもの実態はどうなのでしょう。阿賀地区では、これまでも様々な団体がそれぞれの立場で、子どもたちを育てる活動に

取り組んできました。そして、その成果も上がっています。しかし、一方で参加する子どもや大人が限られていたり、各団体同士の連携が十分図られていなかったりしているのも現実です。

このような課題を直視し、地域学をご専門としておられる丸田秋男先生から基調講演をしていただきました。その後、シンポジストの方々から、それぞれのお立場で、日頃携わっている活動を踏まえて、具体的に成果や課題を明らかにして解決策を探る話し合いをしました。また、フロアの方々からの意見を交え、阿賀地区としてこれだけは是非やりたい、という活動や方向性を明らかにしたいと考えました。

平成17年11月20日

「子どもの教育を語る集い」シンポジウム 【テーマ】

「子どもの豊かな心を育む地域力の創造」

I 基調講演

新潟医療福祉大学 教授 丸田 秋男 様

北地区の子どもたちの教育力、地域力を高める実態として次のことが挙げられる。

- 1 濁川地区では、18歳未満の子どもたちと高齢者の人数はほぼ同数であることと、若い世代の人達が多いことから活力のある地域である。
- 2 子ども教育について、問題となることをどのように取り上げるのか。つまり、地域の人々の思いや願いを受け止め、取り上げることが大切である。
- 3 他地区の活動と比べるのではなく、この地区の活動の内容をしっかり受け止め、評価することが大切である。
- 4 地域力向上に向けた新たな取組みをどのように活用していくのか、どのように支えるのか

実践記録

99

シリーズ

勤労青少年ホームの（青年の生涯学習対策としての）イベントの取り組みについて （中越A地区勤労青少年ホーム・スノーフェスティバルの取り組みについて）

柏崎市柏崎公民館・勤労青少年ホーム 主任 江口 和夫

・従来のイベント、講座等の傾向として事務局がお膳立てして、参加者がそこに乗るだけという傾向が多いので、今回、中越A地区の担当ホームとなったのを機会に、「主体的に企画や活動できる青年の育成」という観点で取り組んでみた。

生涯学習における青年対策という観点

かつては、柏崎市内各地の青年団体の全市的な組織として、中央公民館に事務局を置き、「柏崎市青年団体協議会」があり、その活動が華やかであった時代とは、隔世の感があります。

素朴に、なぜ同じ青年がこんなに変わったものか、という思いがするところがあります。

どこの地区でも同じ思い（悩み？）かとは思いますが、現在の青年は何をしなくても一番反応がなく、集まらない年代であるようです（集団活動を好まない。乗用車1台分位の人数しか集まらないとも言われている）。

現在、公民館においても、かつての青年学級講座は、開設できないような状況であり、青少年ホームで趣味講座主体のもので、青年から集まってもらっている状態であります。

青年対策は「開けてはならない、開かずの扉状態」とさえいわれているところ、今回、あえて少し、こじ開けてみました。



福島県
猪苗代スキー場で

・実際の方法としては、昨年のスノーフェスティバル（担当ホームが場所を決めて、対象ホームに呼びかけて、スキー、スノボまたは、滑らない人は温泉めぐりコースという内容）の参加者7名に呼びかけたところ、5名から出席してもらい、その後3名が新規メンバーになってもらいました。

・昨年10月から12月まで6回にわたり、話し合いを続けた結果、従来の内容（場所）とはまったく違う福島磐梯方面の案が出て、これで決めました（事務局主導では出なかったかもしれない方面）。

・この間、当初の想定よりスムーズに話し合いが進行した。

イベントの成功のための三つの「もの」－（よそもの、わかもの、ばかもの）のうち、一番大事な「ばかもの」－（そのことに、ばかになって取り組んでくれる一番大事な人）が何人も輩出し、大いに助けられました。

・開催当日が近づくにつれて、メンバーたちが「おれたちが決めた計画なんだ」というような意識がところどころに感じられたことが、大きな成果だったと思います。

・青年対策も魅力的なテーマがあれば、それを目標にして主体的に活動できるものだと感じました。

・そこで、この活動を実績にして、久しく途絶えている「利用者協議会」の復活へつなげたいねらいがありましたが、今回の中心的メンバーがホーム利用者年齢の上限に近い人が多いため、次にどのようにつなげるかが、現在思案のところではありますが、従来にない新しい実績ができたと思います。

・反省点－話の進行が当初の予想よりスムーズに行き過ぎた傾向だったため、メンバーに任せすぎたところがあり、メンバーから批判されたこともあり、前途が危ぶまれたこともありました。



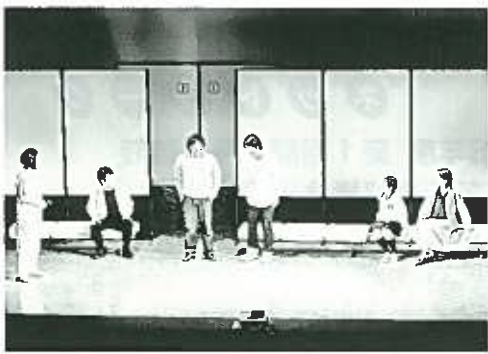
夜の交流懇親会

地域に根付け

演劇集団36連射

「魚沼の地域で活動している劇団の有志で、ひとつにまとまって何か出来ないか」という想いで発足したのが五年前。以来、年に一回のペースで演劇の公演を行っています。

メンバーは各自、別の劇団に所属しているために、稽古期間や時間等、いろいろ制約はあるものの、この場でしか一緒に出来ないメンバーとの交流を大切にしています。時として、意見の衝突などもありますが、足を運んでくださる観客の皆さんに、より良いものを観ていただきたい、というひとつの目標に向かって



頑張っています。

雪深い魚沼の地に「演劇」という芽を根付かせられるように、活動してゆきたいです。

南魚沼市
演劇集団36連射
鈴木 美亜子 記

活動の成果を

地域のために
なんでも創ろう会



私達の「なんでも創ろう会」は、平成十二年に町の生涯学習講座から自立して、受講生の手による自主運営サークルとして発足しました。

受講生は、広く町民に呼びかけ募集しており、今年度も定員一杯の三十名で四月に開設、他にボランティア活動を随時行っています。

梱包テープで小物作り



そは打ち体験教室



講座内容は、その名のとおり「なんでも創ろう」で、郷土料理(スローフード)・手芸(古布リサイクル)・草木染め(自然の素材活用)・教養講座などなど。講師は受講生が担当する他、町の出前講座を活用しています。

仲間づくりと、講座で身に付けた知識・技術は、ボランティア活動をとおして地域に還元することをモットーに、楽しみながら「物づくり」に励んで居ります。

山北町
なんでも創ろう会

本間 彰 記

長岡市は平成の大合併を経て、今年4月市制施行100周年を迎え新たなスタートを切りました。

平成18年1月1日の4市町村を加えた第二次市町村合併で、栃尾市から長岡市中央公民館に配属されたニューフェイスを紹介します。行政マン3年目、初めての異動が合併によるもので、少し戸惑いを隠せなかった日々も、今ではすっかり



長岡市中央公民館
主事 佐藤 春雄さん

慣れて中央公民館の受付ボーイとして活躍。

ほかに成人教育活動、利用統計、ホームページの更新等と幅広く活躍しています。

トレードマークの髪型は、週1回自分で整髪しています。元気なあいさつは、職場の士気を高め、公民館利用者からも親しまれています。

(長岡市中央公民館活動係長、風間良平 記)

旧栃尾市の時代から公民館の高齢者事業を担当してもらっています。職員の中では一番の経験年数を誇ります。老人クラブをはじめとする高齢者の方々に五十嵐さんを知らない人はいません。お年寄りが公民館を訪ねてきたら五十嵐さんのお客様と思えばまず間違いありません。

ていねいに、また納得のいくまでわかりやすく説明する口調は、優しくしかも説得力にみち



長岡市教育委員会栃尾分室
社会教育指導員 五十嵐勝栄さん

ており、実直な人柄と相まって絶大な信頼を得ています。

今頃の時期になりますと、研修視察の引率者として県内各地に出かけ大忙しです。

子どもからは「勝ちちゃん」と慕われ、大人からは「五十嵐さん」と頼りにされて、公民館にはなくてはならない大事な人です。健康に気をつけこれからも大活躍してください。

(長岡市栃尾公民館長 渡辺 均 記)

素顔拝見

恵贈資料紹介

はぐくみネットワーク

新潟県地域家庭教育推進協議会

国の家庭教育支援総合推進事業の委嘱をうけ、平成十六年十月新潟県地域家庭教育推進協議会が、県内社会教育関係団体や経済団体等により結成組織され、県民全体で考え支援し、平成十七年度は、具体的に地域での学習、実践活動を展開されたものだそうです。

本事例集では、事例集の紹介のみにとどまらず、活用し



やすいよう編集されております。

内容は、I、事例紹介 1 家庭教育支援分野での取り組み事例 2 体験活動分野での取

組み事例 3 家庭教育支援とともに体験活動に取り組んだ事例 4 企業や団体などで取り組んだ事例、そしてII、資料編とで構成されております。

当連合会でも、ワーキングチームと市町村公民館等の関連事業で参画しております。

また当月報七月号では、特集、実践欄で、津南町と荒川町の事例を紙上紹介する予定としております。

Net work ネットワーク

平成18年度 第1回関東甲信越静 公民館連絡協議会理事会開催

○1日目 5月18日(木) (14:30~17:00)

会場 前橋市民文化会館

- 1 開会あいさつ ・松本浩二会長
- 2 来賓あいさつ ・群馬県教育委員会 生涯学習課長 清水 健二様
- 3 歓迎のこたば ・前橋市教育委員会指導部 生涯学習課長 菅野 肇様
- 4 議事
 - (1)平成18年度関東甲信越静公民館連絡協議会事業計画について
 - (2)平成18年度関東甲信越静公民館連絡協議会収支予算について
 - (3)第47回関東甲信越静公民館研究大会について
 - (4)全国公民館連合会理事の推薦について
 - ・松下 誠 ・高橋 昭
 - (5)その他
 - 全公連理事会の報告
 - ・年会費12%の引下げ
 - ・災害対応マニュアル作成
 - ・全国大会開催 仙台市で 東北・中国・四国ブロックは社教委との合同開催で
 - ・「公民館の歌」CD化
- 5 会場視察 I (全体会場・第1・12分科会場)
 - ・「前橋市民文化会館」内

event

information

「早寝・早起き・朝ごはん」国民運動

子どもたちの正しい生活リズムを
地域全体ではぐくめる社会をつくらう!



○2日目

5月19日(金) (8:30~11:30)

- 1 会場視察 II (分科会会場)
 - ・分科会会場 前橋市総合教育プラザ (第2、4、7、9、13、14分科会)
 - ・分科会会場 前橋市総合福祉会館 (第3、5、6、8、10、11分科会)
- 2 協議 (前橋文学館・3F「学習室」)

第

五十七回県公民館大会も、小千谷市公民館を中心に、準備本格的始

動に入っております。大会資料原稿作成依頼、参加申込みもインターネットで、

あ と が き

また第二回実行委員会の開催準備にも入っております。

第四十七回関プロ公民館研究大会の開催要項が、県内各市町村公民館宛発送済みですが、隣県ですので、ぜひ多数の方々の参加をお待ちしております。

(鈴木 記)